

日本共産党東葛地区委員会と矢田春代元県議候補への 再度の公開質問状

平和が戦後最大の危機にあるときに平和運動への分断を持ち込んだ責任を問う

日本共産党東葛地区委員会 殿
矢田春代 殿

2015年6月3日
社会民主党流山支部
代表 小宮清子
幹事長 阿部治正

去る5月15日、社会民主党流山支部は、「日本共産党東葛地区委員会と矢田春代元県議候補への公開質問状」を発し、東葛地区委員会の加藤英男氏に手交しました。公開質問状では、4月に行われた統一自治体選挙の中で共産党が社民党をおとしめるために街頭演説・連呼・電話かけ・個々面接等々を通して行ったデマ宣伝（「社民党は戦争法案賛成の立場に転換した」）の非について、5月末日までに社民党流山支部に回答を行うよう、併せて最大の被害者である市民に対して説明を行うよう求めました。しかるに、共産党東葛地区委員会は、今もって、社民党流山支部に対する何らの回答も、市民への説明も行おうとしていません。

この“沈黙”は、異常です。

この沈黙が物語っている事実は、第一に共産党が私たちが発した公開質問状の意味をそもそも理解さえ出来ない愚昧な組織であるか、第二に理解は出来てもそれに対する回答を行う責任を感じる事の無い不誠実極まりない集団であるか、第三に私たちが指摘した問題に対して何の釈明も出来ないことをもって自らの非を認めているか、いずれかなのでしょうか。

私たちはこう受け止めています。今回の沈黙は確かに共産党の暗愚を示しているにしても、むしろ問題はこの党の著しい無責任さと不誠実さが浮き彫りになったことにあると。またこうした無責任に身を任せざるを得ないのは、私たちが指摘し批判した問題について共産党が何の抗弁も出来ない状況にあるからだ。

しかし、共産党がこうした態度をとり続けることを、社民党は、そして何よりも主権者である市民は、決して許さないでしょう。何故ならば、この問題は、あなたたちには感じることも想像をすることも出来ないのかもしれませんが、日本の政治の質を問うているのであり、「革新」を名乗ってきた政党が果たしてその資格を持っていたかどうかを厳しく問うているからです。そして何よりも、平和・護憲運動が戦後最大の課題に直面している今、この運動への分断の持ち込みは断固として排されなければならないからです。新たなより大きな団結が心あるすべての人々を結びつけつつ真剣に追求されなければならないからです。

社民党はこの団結と運動の広がりをつくりだすために最大限の努力を傾けており、市民もそのことを希求しています。共産党が現下の政治状況をどう理解し、どう自らの責任を果たそうとしているか、あるいはそれに背を向けようとしているか、市民は注視をしています。

沈黙によってこの出来事が人々の記憶から薄れていくということはないでしょう。反省がなければ同じことが繰り返されるでしょう。

だからこそ、共産党東葛地区委員会に対して、再度求めます。政治モラルにもとる行動を反省して革新政党と呼ばれるにふさわしい地位を得る努力を開始するのか、それとも市民道徳にも反する行為にほおかわりをしつつ反社会的集団とのそしりを受けつつ沈黙を続けるのか。今なら、まだ遅くはないはずです。真剣な反省と総括を行うよう改めて強く求めます。

以上